

就実大学薬学部生の人体解剖実習

○田邊 裕子¹, 徳永 智典¹, 豊村 隆男¹, 小野 浩重¹, 森 秀治¹, 隅田 寛²,
青山 裕彦³, 洲崎 悦子¹(¹就実大薬, ²広島国際大保, ³広島大院医歯薬)

就実大学薬学部 5 年生 2 名が広島大学医学部で 3 日間の解剖実習を行った。腹部血管系並びに骨盤内の血管系に着目して御献体の解剖を行い、実体を理解することを試みた。

腹部の血管系として、腹腔動脈、上腸間膜動脈、下腸間膜動脈、及び経口投与された薬物が吸収されて通ることになる腹部静脈～門脈系を剖出して確認した。腹腔動脈からは、左右の下横隔動脈、左胃動脈、後臍動脈、脾動脈が分岐し、総肝動脈が胃十二指腸動脈と固有肝動脈へと続き、固有肝動脈から右胃動脈が分岐していた。固有肝動脈は細く、まず左枝が分岐し、さらに胆のう動脈と右枝に分岐した。肝臓へは、細い固有肝動脈に加えて、左胃動脈の延長として左副肝動脈が存在し、同時に、上腸間膜動脈からも右副肝動脈が分岐しているという変異が観察された。これは細い肝動脈を補っていると考えられた。その他、後臍動脈と右副肝動脈とを連絡する血管のループが存在していた。

骨盤内の剖出は困難であったが、坐薬が初回通過効果を受けずに静脈内注射と同等の効果があることに寄与する血管として、中直腸静脈と下直腸静脈を見つけることを試みた。中直腸静脈は内腸骨静脈へ合流し総腸骨静脈を経て下大静脈へ至るため、この静脈へと吸収された坐薬の成分は肝臓での初回通過効果を受けることなく全身へと作用することを確認した。また、別の御献体について背側から臀部を剖出することで、内陰部動脈が下直腸動脈を分岐して直腸下部に至る様子及びまたその周囲に下直腸静脈を確認した。その他、頸部や胸部において、腕神経叢、迷走神経や反回神経、横隔神経、腹部や骨盤内で下腸間膜神経節、腰仙骨神経幹、仙骨神経、大腿神経等の神経も確認でき、学びの多い解剖実習となった。